

健康

徳大病院  
元気を  
支える  
医療



大藤 純  
救急集中治療科  
教授・診療科長

徳大病院救急集中治療

門性の高い看護師や臨床工学技士、薬剤師、栄養士、理学療法士と連携して高度な診療をしています。ICUとHCUには、高性能な生体モニターや最新の人工呼吸器、補助循環装置、血液浄化装置などの医療機器を備え、あらゆる臓器不全に対応できる態勢を整えています。

科は、院内に集中治療室（ICU）10床と高度治療室（HCU）11床を設け、他の医療機関では対応が難しい重症患者を受け入れる最後のとりでの役割を担っています。具体的には敗血症や重症肺炎、急性心筋梗塞、心不全、広範囲熱傷、小児の重症患者の治療、心臓外科手術など侵襲の大きい手術後の全身管理などです。

重症疾患の代表的なものに敗血症があります。細菌やウイルスに感染すること強い炎症が起き、適切に治療しないと全身の臓器の機能が低下して死に至ります。世界中で年間3千万人がかかり、3人に1人が亡くなっています。原因は肺炎や尿路感染、腸管感染などが中心で、病原体の多くは細菌です。

治療は、原因となっている感染症に対処するため、できるだけ早く適切な抗菌薬を投与します。ただ臓器障害が強い上、敗血症性ショックと言われる命の危険が迫っています。

# 重症患者の最後のとりで

## 救命と社会復帰 支援

場合も多いため、呼吸不全などへの対処も同時に行います。人工呼吸器や血液透析、人工心肺装置ECMO（エクモ）を使用する場合もあります。

患者さんから採取した検体に特殊な染色を施して顕微鏡で病原菌を診断し、迅速に適切な抗菌薬を選択できる設備を整えています。各種ウイルスの遺伝子検査装置を使い、ウイルス感染から重症患者を守るシステムも確立しています。

敗血症は回復までに時間がかかるため、治療中に体力や認知力が弱り、さまざまな合併症を引き起こす恐れがあります。

近年では、救命できても身体や認知、精神の機能だけでなく、患者の家族のメンタルヘルスまでもが影響を受け、生活の質（QOL）が低下する「集中治療後症候群（PICS）」が課題になっています。

敗血症は回復までに時間がかかるため、治療中に体力や認知力が弱り、さまざまな合併症を引き起こす恐れがあります。



エクモを使って心肺機能を補助される患者